歌浦っ子だより（学校だより）

「やさしい心　夢かがやく　歌小の子どもの育成」

平成２９年　９月　１日　　文責：校長　内野義和

前期後半開始

やはり学校は子供たちがいて、はじめて学校です。大きな事故やけがもなく、全員が揃いました。子供たちの元気な声に教職員もさらに頑張ろうという気になっております。ご家庭でのご指導、ご協力ありがとうございました。これからは実りの秋に向けて、学習や体験、運動の充実に学校あげて取り組んでいきます。ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

平和集会について

８月９日（水）の登校日に平和集会を行いました。平和学習については、６月２９日から各学級で進めてきました。平和学習用ビデオを視聴したり、平和に関する図書を読んだり、長崎の原爆資料写真を見たり、道徳や学級活動で話し合いをしたりして、学習を深めてきました。

８月９日は、さらに学習を深めることができるように平和集会を行いました。次のように進みました。

①校長の話

○校長先生が若いとき、勤めていた学校の校長先生に、「長崎の原爆を体験されたと聞きました。ぜひ子供たちにその悲惨さを話してください」と頼みました。その校長先生は、当時旧制中学生でした。今の高校生です。戦争で兵隊さんに若い男性は行ってしまい、人手が足りなかったので、学徒動員ということで、学校に行かず、三菱の兵器工場で働いていました。そのとき原爆を体験したのです。三菱の兵器工場は原爆が落とされたすぐそばにあり、たくさんの方が亡くなりました。その校長先生は奇跡的に助かったのです。だから、そのとき体験したことを話してくださいと頼んだのですが、「内野先生、あなたの頼みでも無理です。子供たちにも話さないといけないとはわかっていても無理です。冷静ではいられません。本当にごめんなさい」と言われました。私たちが想像もできないような苦しい、悲しい体験をされたのだと思い、頼むことはやめました。相手のことを考えないで、簡単に考えていたことを恥ずかしく思いました。でも、私たちは子供たちへ伝えていかなければなりません。このあと、古川先生からお話があります。アリスの会の近藤さんによる読み語りがあります。平和学習は続けてきたとは思いますが、さらに深めてください。

○今日学ぶこと、これから学んで欲しいことは次のことです。

・戦争や原爆の恐ろしさ、悲しさ、平和の大切さ、焼け野原からの立ち直り。

・やさしい心の大切さ（言葉づかい、思いやり、ありがとう、いじわるをしない、悪口を言わない、たたく・けるをしない）

②古川先生の話の内容

○昭和２０年８月９日、午前１１時２分、長崎に原子爆弾が落とされる。亡くなった方、約７４０００人。原爆で亡くなった方の６０パーセントは爆風による死因。爆風のすごさをCGにしたものの視聴。爆心地近くの城山国民学校が崩れた様子の写真提示。その城山国民学校の児童はその日、家で自宅待機中に被爆。全校児童１５００人中１４００人が亡くなる。平和の世の中になるために、自分はどうするかを考えて欲しい。

③アリスの会の近藤さんによる読み語り

○松添博さん作・絵「ふりそでの少女」を読み語っていただきました。被爆した少女２人が晴着を着て火葬されるという悲しい実話をもとにした絵本です。気持ちを込められた、まさに「語り」だったので、子供たちの心に内容が染み渡っていきました。

④平和宣言

○１年「みんながしあわせにくらしていけるように、せんそうはぜったいにしません。ともだちをたいせつにして、なかよくします」

○２年「せんそうはこわいです。かなしいです。ぼくたち、わたしたちは、ともだちやあい手のことを考えて、まい日をすごします」

○３年「ぼくたち、わたしたちは、みんなが笑顔でいられるように、周りの人を大切にします。小さな戦争をなくします」

○４年「感謝と思いやりの気もちを大切にして、みんなと仲よくします。思いは言葉で伝え合い、平和をつくっていきます。自分ができることに、一生懸命とりくみ、命を大切にします。」

○５年「みんな仲よく助け合って、やさしさいっぱい歌小」

○６年「～平和って笑顔があって、家族と友達のあたたかさにふれられること～ぼくたち、わたしたちは、心から笑顔をたやさず、まわりのすべての人の笑顔をうばわず、仲良く協力して過ごすことをちかいます。」

ご家庭でもぜひ戦争や原爆の恐ろしさ、悲しさ、平和の大切さ、焼け野原からの復興、平和を続けるにはどうしたらよいかなどを子どもたちに伝えてください。よろしくお願いいたします。